

聖霊降臨後代主日礼拝

ルカ5：17-32

「中風の人をいやす」

(1)

「現在の日本は、不幸を封じ込めている社会ではないか」との指摘があります。暗い部分から目を遠ざけ、明るい部分だけを見つめようとする傾向があるからです。

5章17節を見ますと、主イエスの周りは、絶えず、さまざまな病を抱えていた人々に取り囲まれていたようです。「彼らは、ガリラヤとユダヤのすべての村々や、エルサレムから来ていた。イエスは、主の御力をもって、病気を直していた」、こうした光景は、なごやら都会の大病院の待合室の様子を見ている感じがします。

主イエスの側には、いつも、こうした様々なやまいをかかえた、多くの人々が押し寄せていました。からだのいやしを求めるとは今も昔も少しも変わりません。中国には、「16羅漢像」があるといえます。ところが、日本では、何と「五百羅漢」になりました。たくさんの「羅漢さん」におすがりしなければならぬ事情があるようです。

ルカ5章17節以下は、「一人の中風をわずらっていた人」と主イエスとの出会いです。医学書には、「中風とは、脳血管障害の後遺症。半身不随、片まひ、言語障害、手足のしびれやまひなどを指す。中気、卒中ともいう」とあります。「中風」の主な原因は、親から受け

就いた「DNA」の体質にあるといえます。しかし、それだけではありません、日頃の不規則な生活、不摂生、偏食なども大いに原因があるようです。

「中風の人のいやし」の記事は、ルカとマタイとマルコの3箇所ありますが、この中風の男が、何歳位であるのか、仕事は何か、家庭の事情はどうかなどについてはいっさいは分りません。

突然、四人の男たちが、中風の男を「床」に乗せて、主イエスの御許に連れてきました。ところが、多くの群衆にさえぎられて近づけません。それで、四人の男たちは、「屋根に上がり、屋根の瓦をはがし、瓦の間から、床のまま、イエスの前に、吊りおろした」(19)ということです。

沖縄では台風60メートルが通過しますから、沖縄の屋根は、平でコンクリート造りです。ユダヤの屋根と似ています。そうした住宅をアチコチに見かけます。

それにしても、四人の男達の咄嗟の気転とはいえ、目的のためなら、如何なる手段も許されるというのでしょうか。確かに、「熱意は百難隠す」ともいわれてきました。

マタイ9章2節を見ますと、「イエスめがけて彼を連れてきた」というのですから、「何とて、彼を治していただきたい、機会は今しかない」と思いつめた者たちの異常な行動です。「火事場の馬鹿力」とも言われてきました。普段では思いも及ばない智恵と工夫が出てき

ます。彼らは、何と、屋根にあがり、屋根の瓦をはがし、瓦の間から、床のまま、イエスの前に、吊りおろした」というのです。しかし、こうした彼らの異常な行動を目にしたがら、主イエスは、そこに「彼らの信仰を見た」(20)と云うのです。

乱暴な振舞いにもかかわらず、何のおとがめもなさらず、主イエスは、運びこんできた四人の男たちの並々ならぬ「主イエスに対する信頼」を「見た」のです。それと同時に、四人の男たちの中風の男に対する並々ならない愛情深さをも「見た」のではないのでしょうか。実は、ルカ福音書を手掛けた「ルカ」は、医者でした。それで、医学の専門用語を用いて、全身麻痺ではなく、両足が麻痺した人であったと説明しています。

(2)
ところで、主イエスのもとに連れてこられた中風の男に対して、「子よ。あなたの罪は赦されました」と申しました。意外な言葉に、「工工……」と本人も周りも驚いたに違いありません。

いやされることを願って、屋根の瓦まで剥いで、主イエスのもとに運び込んだ彼らの目的といえただだ一つ、「あなたの病はいやされました」——、「と云っていただけることだけを期待していたのです。ところが……、意に反して、「あなたの罪は赦されました」との言葉は、意外と言えは意外です。ご本人と四人の男達の思いとはまるで裏腹・アバコへ

であります。

「ガンが治った」・「医者から見放された病気が奇跡的に癒やされた」——、こうしたあやしげなパンフレットを街頭で手渡されたことがあります。霊験あらたかとうわさの高い新興宗教の教祖であるならば、この男をいやせば名声を挙げる絶好の機会です。

ところで、主イエスは「赦されました」と申しましたが、それが主イエスご自身が赦したのか、それとも誰の誰であるかがはつきりしません。そばにいた律法学者、パリサイ人たちは、それであれこれといひ始めました。

「誰が」「彼」「罪の赦し」を与えたのか……との疑いをいだいたのです。

仮に、主イエスの権限で「赦しを与えた」と言えば、律法学者たちやパリサイ人たちは、「神をけがすことを言うこの人は、いったい、何者だ。神のほかに、だれが罪を赦すことができるのか——との厳しい批判にさらされま

す。しかし、主イエスは、ここで、どっちともとれる、なんとも曖昧な言い方をなさいました。「あなたの罪は赦されました」といいますが、「わたしが赦しました」とは申しておりません。「赦した」とも、「赦されました」とも受け取れる、「中間態」ともいえる訳です。ところが章24節では、「わたしは地上で罪を赦す権威を持っている」(24)と明言しているところから判断して、罪を赦す権威は持っている。しかし、「あなたの罪が赦されま

た」との証印を押すのは、わたしではありませんといいユアンズが伺えます。

「タヤ議員の一人」「ニコデモ」と、主イエスの間に、不思議な会話がなわておられます。

「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきこえてどこへ行くかは知らない。霊から生まれる者もみな、それと同じである」(ヨハネ3:8)と主イエスはニコデモに申しました。

「風は思いのままに吹く」のp.9。

「風」とは「ルファッハ」(ハブル語)・「ニコーマ」(ギリシヤ語)ー、共に「息」とか「霊」という意味です。」霊から生まれる者もみな、それと同じである」と主イエスが申しした時、「ニコデモは」とうして、そんなことがあり得まじょうか、「人が霊から生まれるー、そんなことはありえない」と強く反論しています。しかし、主イエスは、風は思いのままに吹くではないかと申しました。

人の内において、自由に生き、動き・存在しているのは「風」とも「息」ともいわれている「聖霊」ではないか。「あなたの罪は赦された」と深いうなずきを与え、恐れを霊から解放されて、「アバ・父」と呼びまじる御子の霊を授けていただけたのは、ひょっとして「聖霊」のお働きであります。

ヨハネ3章30節では、「わたしは、自分からは何事もする事ができない。・・・わたし自身の望むことを求めない、わたしを遣わした方のみこころを求めます」と主イエ

スが自身が申ししております。罪の赦しの証印を与えるのは、御聖霊であると申ししているのではないのでしょうか。

(3)

それにしても、何故、主イエスは、「やまいのいやく」を優先しないで、「罪のゆるし」を優先されたのでしょうか。

「あなたの罪」ですが、実は、罪の複数形「マルティア」なのです。即ち、「あなたのものもろの罪」が、中風の病となった根本の原因であり、その結果であることを、主イエスは見抜かれておられたようであります。

岩波新書に、「心療内科」という本があります。精神的なストレスが内臓億深々まで及んでいる状態は、わたしたちの想像以上であります。例えば、許せないという思いをいだいた人が、バリウムを飲み、レントゲンを照射すると、小腸が曲りかねって、捻転している様子がリアルに写し出されます。

「断腸の思い」「はらわたが煮えくりかえる」と言われてきました。まさに言葉通りです。許せない心・怒り・いらだち・不安というさまざまなストレスを抱えていると、気づかない内に、かくも深く身体の内面にまで及び、体調がおかしくなります。

「心療内科」を書いた医師は、「あらゆる精神的なやまいは、『罪』(自我の強さ)と深く関わりをもっている」と申ししております。

中風の男が、仮に、中年を過ぎていたとしますー、すると、家族のものたちや、周囲のも

のたちとの関係がどうであったのか、そうしたもう一つの日常的なことが積み重なった結果、脳の血栓を引き起こした可能性は十分考えられます。

もう50年も前になりました、三浦綾子さんの「氷点」が朝日新聞の懸賞小説の主席となり、日本中の話題になりました。特「罪の赦し」という珍しいテーマが、小説で取り上げられたことが注目されました。

主人公の陽子さんは、殺人犯の父親の血筋を引いていると、知らされ、悩みに悩んで、自殺を決意し、遺書を書き残します。

「私は人を殺したことはありません。法にふれるような罪を犯したことはありません。自分さえ正しければ、たとえ貧乏だろうと、人から悪口を言われようが、いじめられようが、胸を張って生きていける強い人間と思っていました。しかし、もはや、これ以上、殺人犯の父親の血筋を引く娘であるという事実を知った上は、それに耐えて生きていくことは、もうできません。私の血筋に流れる罪を、はつきり『赦す』と言ってへくれる権威ある声を聴きたいのです」「一、一、」氷点「の中心主題がありました。

「私の血の中を流れる罪を、はつきり『赦す』と言ってへくれる権威ある声が聴きたい」「一、一、」この陽子さんの思い、願いに、聖書ははつきりと応えます。

「神の子となる者は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ

神によって生れたのである」(ヨハネ1:13)。「血すじによらず」と言われている御言により救われたのは、「賀川豊彦」です。彼のお母さんは高知一の芸妓でした。「僕の方だには汚れた血が流れている」と悩んでいた賀川青年は、「ア、ア、」又言教師」と出会い、血筋は関係ないといわれて平安を得たといえます。

わたしがほしいのは「赦し」である。それ以外のものではない。わたしの罪をはつきり「ゆるす」と言ってくれる権威ある方に出会うことができれば、他に何もいらない、こうしたことを陽子さんといわせて、三浦綾子さんは、隠された形で、聖書の神を紹介しました。

どうかあなたも、この権威ある方に出会ってほしい。「あなたの罪を赦す」といわれている神がおられるではないか。あなたの存在を受け入れてくださる方がおられるのです。どうかあなたも、この神の権威の前に立つてほしい。そうすれば、あなたは生きることができ

る。考えてもみて下さい。仮に、この中風の男の病が奇跡的にいやされたとします、しかし、彼のその後の生活態度が何ら変わらなければ、また、以前と同じ日常の生活に戻り、同じようなやまいとなるかも知れません。

主イエスは、「中風の人に『あなたの罪は赦す』』と『起きて、床を歩いて歩け』』と言った、とちがらが易しいか」と律法学者たちに問い返しました。それから、彼に回し、

」床を取りあげて歩きなさい」と命じました。
それは、「人の子が地上で罪を赦す権威を持つ
してゐる」ことを、あなたがたに知らせたためだ
と仰す。それは、「あなたに罪はゆるがせに
されてゐる」とも仰す。赦していただくことも
ゆるがせにされてゐる。美し、あなたに罪
はゆるがせにされてゐる。赦すのは神の御業
です。聖霊がその証として御心にお語りま

【祈り】

父なる神よ、あなたの罪は赦されま
した。と申しました権威ある罪の赦しの権限
を御父から与えられた主イエスの御声を安ん
び受け取るものになりたうと願ひたうと申し

ます。キリスト・イエスの名にて祈ります。
アーメン。